

2019年8月

公益財団法人 船井情報科学振興財団

Funai Overseas Scholarship 第9回報告書

釣巻 瑤一郎

MIT MechE, Ph.D.課程の釣巻瑤一郎です。MITでの四年目も終わりに近づいてきました。研究では新しい研究の方向を模索する一方で、卒業を視野に入れてこれまで行ってきた研究を更に広げ、卒業論文としてまとめあげることも同時に考えています。それに加えて卒業後のこともしっかりと考え始め、行動に移し始める必要もあります。そういった事情で色々な考えが頭をよぎる時期を過ごしています。今回は **Qualifying examination** を終え、講義要件を修了した後、**Ph.D.ディフェンス**（学位審査）へ向けた活動について（MIT機械工学を例にとって）報告したいと思います。

博士課程の学生は卒業に向け主に三つの要件を満たす必要があります。**Ph.D. student** から **Ph.D. candidate** になるために **Qualifying examination** と呼ばれる試験に受かること、求められる数の授業単位を取得すること、そして一番大事ですが博士研究で論文を書くことです。以前の報告書に書いたとおり、私は上記の内最初の二つに関してはすでに終えているため、研究に時間を割いて毎日を過ごしています。博士課程は学位審査を通過し、博士論文を書けば卒業になります。MIT機械工学科において学位審査を行う前には研究論文を書くことに加え、主に二つの事を行う必要があります。一つは **Thesis proposal** と呼ばれるもので、博士過程で行う研究がなぜ博士号に値する新しくかつ重要な研究なのかを6ページの文書としてまとめます。**Thesis proposal** は前々回の報告書で詳述した研究資金獲得のためのプロポーザルに似ています。先行研究をまとめ、その上で現在行っている研究の進捗（**Work in progress**）、そして最終的にどのような結果が期待され、その研究分野に貢献するかをまとめます。

二つ目は **Thesis committee**（論文審査委員会）を開くことです。これはMITの教員少なくとも二人を含む三人以上の教員から構成され、学位審査の前に計三回開く必要があります。委員会では、スライドを用いて、自分の研究を教授陣の前で発表します。初回の **Thesis committee** では **Thesis proposal** の内容を基にこれまで行ってきた研究とこれからの研究予定を発表し、それについて教授陣から質問や提案を受けます。それを考慮して研究を続け、三回の **Thesis committee** を行ったあとに学位審査の日程が決まります。そうして学位審査を突破すると無事卒業となります。

現在は **Thesis proposal** を書いています。今秋に提出し、年末前には一回目の **Thesis committee** を行うことが目標です。そのために現在は **Thesis committee** のための教授陣の選定も行っています。

最後になりますが、充実した生活を送ることができているのは船井情報科学振興財団の支援のおかげです。今年もNYでの交流会に参加させていただき、他の奨学生と楽しい時間を過ごすことができました。船井財団には本当に御世話になっています。これからも研究を頑張ります。